

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

## 2024年 第48週（11月25日～12月1日）

### 今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

#### 定点把握感染症

##### 「インフルエンザ 全ブロックで増加」

第48週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,819例であり、前週比11.1%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、流行性角結膜炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.29、1.74、1.58、0.62、0.37である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比20%増の845例で、中河内5.95、南河内4.88、豊能4.83、泉州4.71、堺市4.68であった。

手足口病は15%減の342例で、大阪市南部2.50、大阪市北部2.29、堺市2.16である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は21%増の311例で、北河内2.40、大阪市南部1.94、堺市1.84であった。

RSウイルス感染症は18%増の122例で、南河内1.25、北河内1.12、大阪市北部1.07である。

流行性角結膜炎は21%減の19例で、三島1.25、北河内0.83、堺市0.80であった。

インフルエンザは127%増の1,503例で、定点あたり報告数は4.91である。南河内9.00、大阪市北部7.05、大阪市西部6.33、北河内4.93、泉州4.76である。全11ブロックで増加していた。年齢別では20歳以上が27%と最も多く、次いで10歳から14歳になっている。大阪府では11月にAH1pdmとAH3が検出されていた。

新型コロナウイルス感染症は41%増の447例で、定点あたり報告数は1.46である。堺市2.48、大阪市南部1.93、北河内1.85、泉州1.65、南河内1.63であった。70歳以上の割合は前週より増加している。

基幹定点把握疾患のマイコプラズマ肺炎は50例と前週より13例減であるが、定点あたり報告数は2.78と例年より多い状況が続いている。

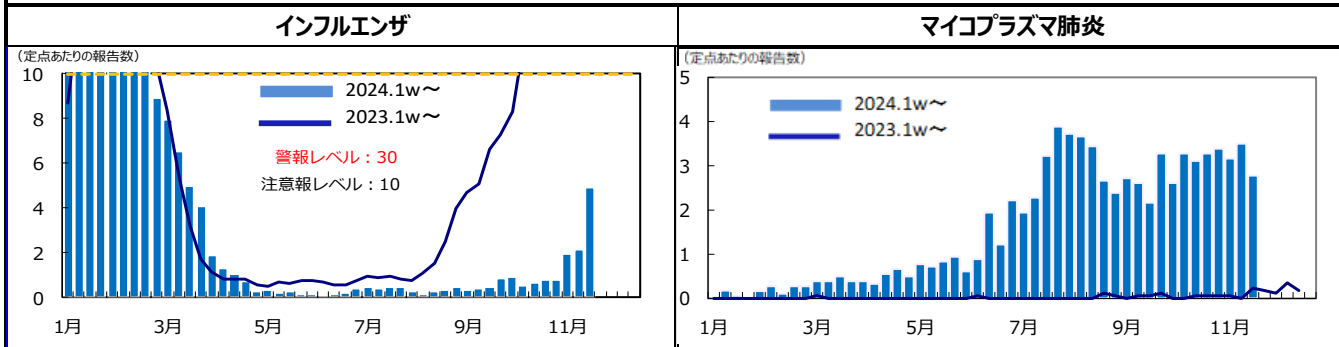


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2024年 第48週11月25日～12月1日）

第48週の順位	第47週の順位	感染症	2024年 第48週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2023年 第48週の 定点あたり 報告数	2024年第48週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.29	20%増	5.20	1歳_13%
2	2	手足口病	1.74	15%減	0.52	4歳_19%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.58	21%増	4.69	4歳_15%
4	4	RSウイルス感染症	0.62	18%増	0.11	1歳_33%
5	5	流行性角結膜炎	0.37	21%減	0.50	20歳以上_63%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	4.91	127%増	17.54	20歳以上_27%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	1.46	41%増	1.82	70-79歳、80歳以上 _17%

[詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について\(大阪府\)』の情報をご覧ください。](#)

[詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症\(大阪府感染症情報センター\)』の情報をご覧ください。](#)

# 第48週のコメント

～麻しん～ ワクチンで予防可能な感染症です

全数把握感染症																			
麻しん																			
<p>麻しん（はしか）は麻しんウイルスによって引き起こされる発熱を伴う発しん性疾患で、感染すると高熱と結膜炎などの症状と、全身性の発しんが出現する。潜伏期間は1-2週間である。強い感染力（一人の患者が12～18人に感染伝播）のため、麻しん発生時には早期の診断と感染拡大に対する措置が重要となる。2015年3月、日本は麻しん排除国に認定されている。しかし、現在でもアジア、アフリカやヨーロッパ諸国で麻しんが流行している。症状（発熱、せき、鼻水、眼球結膜の充血、発しん等）があり、1）1か月以内に麻しん患者と接触していた場合、2）麻しん流行国（主にアジア及びアフリカ諸国）に最近の旅行歴がある場合、麻しんを疑い、感染拡大を防止するため、医療機関を早期に受診する。受診に際し、医療機関に事前連絡し、麻しん疑いを伝え、指示に従うことが重要である。麻しんはワクチン（1歳以上で2回）で予防可能な感染症であり、接種の徹底が予防や感染拡大の防止に重要である。</p> <p><a href="#">麻しんとは（国立感染症研究所）</a>  <a href="#">麻しん情報（大阪府感染症情報センター）</a></p>	<p><b>年別累計報告数</b></p> <p>2024年は大阪府第48週時点 全国第47週時点</p> <table border="1"> <caption>年別累計報告数 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>大阪府累計</th> <th>全国累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2020</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>2022</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>2023</td> <td>5</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>2024</td> <td>10</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	年	大阪府累計	全国累計	2020	1	10	2021	0	10	2022	0	10	2023	5	30	2024	10	40
年	大阪府累計	全国累計																	
2020	1	10																	
2021	0	10																	
2022	0	10																	
2023	5	30																	
2024	10	40																	

表 2. 大阪府全数報告数（2024年 第48週11月25日～12月1日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3			2				1		215
4類感染症	デング熱	1							1		21
	レジオネラ症（肺炎型）	4			1		2			1	107
5類感染症	アメーバ赤痢	1								1	36
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1					99
	後天性免疫不全症候群	1								1	85
	侵襲性肺炎球菌感染症	2				1				1	220
	梅毒	19		1	1	2	1		1	13	1,781
	破傷風	2					1			1	4
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1								1	15
	百日咳	16			4		1		5	6	207
	麻しん	1				1					10
結核 (2024年10月分)	結核 新登録患者数：77名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 36名) (府内累積報告数 873名、内 肺・喀痰塗抹陽性 328名)										

(2024年12月3日 集計分)